

所 信 表 明 書

この度、私の学長としての任期が令和5年3月31日で満了する予定となり、令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年間）の次期任期に向けて再任の審査をお願いすることになりました。第一期目の平成31年度から現在に至るまでの3年間には、本学を取り巻く状況には新型コロナウィルス感染症の拡大という経験のない難局が生じ、大学の運営にとって大きな変革を伴う対応を求められることが続きました。その間にも、「グローカル教育研究拠点」を目指して教育研究環境の充実を図り、人件費を中心とした財政・組織改革にもスピード感を持って当たって参りましたが、一期4年間の任期では当初掲げた目標を完全に達成することは困難な状況です。もし、次期任期の機会を与えていただけるならば、この難局にも負けないよう取組みを続けてwithコロナの時代に即した本学の更なる発展に全力で尽くしていきたいと考えています。私は、令和4年度から始まる第4期中期目標期間に向けた学長ビジョンを昨年11月に発表しました。このビジョンは第4期中期目標期間6年間に向けたものですので、これに沿うよう次期任期に向けた所信を述べさせていただきます。

（所信）

鹿児島大学が進取の気風にあふれ、「南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点」となるよう持続性を持った改革にあたり、教育研究環境の充実・強化を図ります。

【達成すべきミッション実現のための具体的な取組について】

持続可能な社会の実現に向けて、引き続き南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、私は以下の基本目標に取り組みます。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革

国際レベルの教育の質の担保を進め、多様な教育制度・入試制度を活用して一層の教育の国際化を図るとともに、グローバルな視点に基づき地域で活躍できる人材の育成に向け、地域との協働に基づく学びをさらに拡充し、地域特性を活かした体験型教育を推進します。また、総合大学としての強みを活かした文理横断的な学びを取り入れつつ社会の急激な変化も見据えた柔軟な教育体系を構築するとともに、学生への支援拡充等の教育改革に取り組み、「進取の精神」を備えた人材の輩出を目指します。

教育の国際化に関しては、withコロナでの国策を踏まえ本学も対応することになりますが、全面的な国際交流の再開に備えて、COIL（Collaborative Online International Learningオンラインを活用した国際的な双方向の教育手法）による海外交流を継続し、英語教育の充実に注力し、UCL稻盛留学生をはじめとする学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れを推し進めたいと考えています。

なお、業績調書にも記載しましたが、国際バカロレア入学試験はアドミッションセンターの尽力により過去最多となる志願者数や入学者数が確保できました。バカロレア生は他の学生にグローバルな視点の醸成に良い影響を与えてくれることを期待しています。

教育改革に関しては、教学 I R を最大限に活用して、18歳人口減少や鹿児島県における特に女子にみられる 4 年制大学への進学率の低迷、本学における課題（複数の研究科にみられる博士課程大学院生定員割れ、教員就職率が低迷する教職養成課程など）への対応にも着手しなければと考えています。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

食と安全、先進的感染制御、生物多様性、宇宙・天文、島嶼や環境等、大学の強みや地域特性を活かした研究分野の更なる発展に取り組みます。また、各種基金等を活用し、若手研究者や競争的資金の獲得が難しい基礎研究及び人文社会科学分野等への支援体制を充実するとともに、イノベーション創出を目指した先進的な分野融合型研究を推進します。

大学の役割というのは多様ですが、中でも「研究」は競争的な資金を獲得する上で最も、学生への教育、社会への貢献、国際交流を行う上でも基盤となります。まずは、教員の研究時間の確保ができるような方向へ持っていくことを目標にした取組みが必要であると考えています。研究を行う地盤作りとして、若手研究者への支援を重点的に行いたいと考えており、業績調書にも記載しましたが、令和 3 年度には研究教授、研究准教授の称号付与制度、バイアウト制度を新たに開始しました。博士研究員支援プログラム (KU-DREAM) も開始に至り、令和 4 年度の採用に向けて 3 名の公募に対し 9 名の優秀な候補者の応募があり、現在選考を進めているところです。これら事業を継続発展させて、本学の研究力向上に確実につなげたいと考えています。

令和 3 年度末には「かぎん玉里文庫貴重書保存事業基金」を設立し、鹿児島大学だからこそ行える研究の一つである古文書等の文化財保護に本格的に着手し、さらには法文学部を中心とした「鹿児島の近代教育研究センター」設立に向けて、鹿児島の近現代に関する教育研究拠点整備事業を進めております。その他にも本学の強み特色ある研究課題は、学長ビジョンに掲げましたとおり多くの研究シーズが存在しています。研究者情報管理システム (DB-Spiral) の機能追加等を行い充実させてまいりましたので、これらを活用した研究 I R を最重要業務として進めて参りたいと考えています。

その他、令和 3 年度から国立大学協会「大学の強みや特色を伸ばす取組みの強化に向けた検討ワーキンググループ」に参画しています。この活動を通じて、研究力の向上、国立大学教員が抱える研究体制への課題について、國の方針策定にも関わっていきたいと考えています。

3. 地域課題に応える社会貢献、产学連携の推進

地域・産業界と連携し、地域課題に応じたりカレント教育プログラムの充実、火山対策をはじめとした地域の防災・減災に資する多様な活動、地域産業や自治体等が抱える課題の解決に取り組むとともに、研究成果の活用と社会実装を推進し、地域イノベーションの創出に取り組みます。また、島嶼や環境など、本学の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を全学的に推進するための拠点を強化・充実させます。

地方国立大学においては、地域人材の養成を目的とした学部（例えば、地域に必要な教員養成学部や医療者養成のための医学部）、個々の大学には地域特性を考慮された歴史的背景がある中で地域特性に合わせた学部（例えば、北海道に次ぐ全国 2 位の農業生産高を誇る鹿児島県において明治 41 年に創設された高等教育機関としての鹿児島高等農林学校からの歴史と伝統を

誇る農学部など）、国策として地域性を考えて配置された学部（例えば水産学部：北海道大学、東京海洋大学、長崎大学、鹿児島大学の各水産学部は国策として研究海域を分担するため設置された）などの地域に特化された学部群は、その教育・人材養成機能とともに研究・社会貢献機能もその地域の活性化のための重要な機能であると考えます。地方大学医学部及び附属病院は地域医療の最後の砦として、また地域特有の疾患の研究など託された役割も持ちます。獣医学部と附属動物病院は地域の動物疾病や人獣共通感染症の予防・診断と治療など地域に密着する重要な使命を持ちます。また、教員養成学部では地域特性に応じた（例えば、離島・僻地の多い鹿児島県では、小規模学校のための複式学級を附属学校で有し、その教育方法を教授する）教育方法の開発研究も重要です。また、地方での自然や文化財の保護などにも高度な学問的協力の機会も多く、また防災関連の専門的協力を求められることもしばしばであり、地域貢献が頻度高く求められるのが地方国立大学であるといえます。

前述した国大協のワーキンググループでは、昨今主流となった課題解決型研究としての研究費の配分では基礎研究を含めた真の研究力強化につながらないという意見も出されています。研究費獲得のための研究課題の設定が横行するといった事態まで発生している昨今の日本における研究者の実情です。私も学長就任前までは一研究者として、地域にみられる原因不明であった遺伝性疾患の原因遺伝子発見を行い、病気に苦しむ患者さんの治療につなげたいと、遺伝子変異から引き起こされる分子病態を解明し、治療戦略に貢献しようと研究に力を注いきました。このような地域に密着した臨床活動から研究室に戻っての治療を目指す研究活動も地方大学における医学者としては醍醐味を味わえるものです。地方におかれた大学の役割の中でも、教員の教育研究成果を社会に還元する「実学」、いわゆる社会実装は重要であると考えています。本学においては、歴代の学長が「地域とともに社会の発展に貢献する総合大学」をスローガンにして大学運営にあたられ、その文言が「大学憲章」として制定されてから15年目を迎えます。このように「社会への貢献」は古くからしっかりと意識された本学の伝統であるかと感じています。第7代学長を務められた井形昭弘先生が在任中に「地域と大学は運命共同体である」と唱えられていた言葉を念頭に、地域の発展に貢献できるような人材の輩出と研究成果を生み出せる組織でありたいと考えています。

4. 地域を支える質の高い医療の提供

先端的基礎的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践しつつ、離島へき地などの地域性を活かした実習・研修を行い、次世代の地域医療従事者育成に取り組みます。

鹿児島県における医療の最後の砦として大学病院は機能しています。すなわち、多種多彩な診療科を有し、多くの優秀なスタッフと共に最高レベルの技術・機器を有した体制は、日々の修練、研究的進歩に支えられて、最新の先進的医療をも実践しています。また、鹿児島県には多くの離島やへき地が存在し、それらを包括的に人的・技術的に連携させるよう、大学が中心となって協力体制を構築しています。次世代の育成にも積極的に動いており、医学科における地域枠学生もすでに多くが県民医療に貢献し始めており、加えて高度な医療が部分的にも担える特定看護師の育成も全国の先頭を切って開始され、多くの有資格者が育っています。

第4期中期目標・中期計画に挙げましたが、世界の研究動向も踏まえ最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成して参りたいと考えています。現在、附属病院は長く続く再開発が進行中ですが、令和6年度の全面再開院に向けて

準備を進めています。病院の予算規模は本学全体予算の約6割を占めていることから病院経営状態には、私自身も常に健全経営が行われているかを注視して参りました。今後も病院機能の強化を図り、県内唯一の特定機能病院として、安心・安全で質の高い高度な医療を提供するとともに持続可能な地域医療体制構築と地域医療の質の向上に貢献するために陣頭指揮にあたりたいと考えています。

5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、IR体制や監査機能の充実を図り、自らをよく知り、評価結果を改革に活かすことで、効果的な組織整備や他機関との連携、効率的かつ健全な大学運営に取り組みます。

大学のガバナンス改革は、令和2年3月に国立大学協会、文部科学省、内閣府の三者により策定された「国立大学法人ガバナンス・コード」に基づき国策として進められているところです。法人経営の透明性を高め、その役割を果たし続けていくために自らの経営を律しつつ、教育・研究・社会貢献機能を更なる高みへと進めるための基本原則として国立大学法人の行動規範が策定されております。そのガバナンス・コードの基本原則1にはIR機能の活用が記述されており、学長就任前からIR体制を充実させて自らをよく知り評価を改革に生かす必要があると考え、この3年間でIRを推し進めて参りました。今後は更にIR機能を強化しまして、自己点検・評価等で収集した情報を整理・分析して、戦略的に大学運営を行っていきたいと考えています。

【その他】

業績調書に記しましたように、私は今までの3年間にわたる学長としての職責において、経営を含めた大学改革・ガバナンス改革を断行して参りました。その基本理念は、「南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指すというスローガンに込められています。昨今の鹿児島大学を取り巻く状況の激変に対して学長に求められる責任はますます重いものとなってきています。機会が与えられますならば、確固たるビジョンを持ち、かつ時局の変化にも臨機応変に対処して、鹿児島大学の発展に全力で尽くしていきたいと考えています。

上記に相違ありません。また、再任審査にあたり、この様式の内容が公表されることに同意します。

令和4年8月31日

国立大学法人鹿児島大学長

氏名

佐野 光



第4期中期目標期間に向けた学長ビジョン



鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育んできた教育的精神的伝統を踏まえた本学ならではの取り組みを推進することで、地域社会、我が国ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとするような「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第4期中期目標・中期計画期間においては、「持続可能な社会の実現」に向けて、引き続き南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、以下の基本目標に取り組みます。

南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点・鹿児島大学

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革

国際レベルの教育の質の担保を進め、多様な教育制度・入試制度を活用して一層の教育の国際化を図るとともに、グローバルな視点に基づき地域で活躍できる人材の育成に向け、地域との協働に基づく学びをさらに拡充し、地域特性を活かした体験型教育を推進します。また、総合大学としての強みを活かした文理横断的な学びを取り入れつつ社会の急激な変化も見据えた柔軟な教育体系を構築するとともに、学生への支援拡充等の教育改革に取り組み、「進取の精神」を備えた人材の輩出を目指します。

2. 大学の強みと特色を活かした 学術研究の推進

食と安全、先進的感染制御、生物多様性、宇宙・天文、島嶼や環境等、大学の強みや地域特性を活かした研究分野の更なる発展に取り組みます。また、各種基金等を活用し、若手研究者や競争的資金の獲得が難しい基礎研究及び人文社会科学分野等への支援体制を充実するとともに、イノベーション創出を目指した先進的な分野融合型研究を推します。



3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進

地域・産業界と連携し、地域課題に応じたりカレント教育プログラムの充実、火山対策をはじめとした地域の防災・減災に資する多様な活動、地域産業や自治体等が抱える課題の解決に取り組むとともに、研究成果の活用と社会実装を推進し、地域イノベーションの創出に取り組みます。

また、島嶼や環境など、本学の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を全学的に推進するための拠点を強化・充実させます。

4. 地域を支える質の高い医療の提供

先端的基礎的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践しつつ、離島へき地などの地域性を活かした実習・研修を行い、次世代の地域医療従事者育成に取り組みます。

5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、IR体制や監査機能の充実を図り、自らをよく知り、評価結果を改革に活かすことで、効率的な組織整備や他機関との連携、効率的かつ健全な大学運営に取り組みます。